



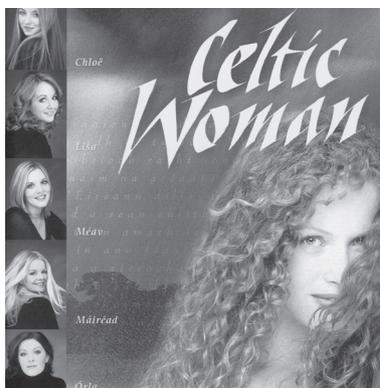
# Celtic Woman



今日では、政治・経済から文化に至るまで、あらゆる分野でグローバル化が進んでいる。一方で、ローカルなものを大切にしていこうという活動もなされている。今回紹介するCDアルバム『Celtic Woman』が生み出されたのも、そのひとつといえるだろう。

このCDアルバムのタイトルは、そのまま音楽アーティストの名前でもある。Celtic Womanは、ケルト地方（アイルランドや英国のスコットランド、コーンウォール、ウェールズなどの地域のこと）ではぐくまれた音楽を広めたいという願いのもとに結成されたユニットだ。そのメンバーは、ヴォーカルをはじめ、ハープ、フィドル（ヴァイオリンに似た民族楽器）などの分野で、ソロとしても一流の女性音楽家たちである。2005年の全米デビューの際に発売されたこのアルバムは、世界中で大ヒットを記録した。その後、新たなアルバムの制作やコンサート活動、新メンバーを迎えるなど、よりスケールの大きな音楽活動を展開している。

それでは収録曲をいくつか紹介しよう。まず、彼女たちの日本での知名度を一気に上昇させたのが「You Raise Me Up」である。この曲は、トリノ五輪のフィギュアスケートのエキシビションで、荒川静香選手が使用したものだ。しっとりとしたバラードにあわせて演技する荒川選手の凛とした姿を覚えている人も多いだろう。そのほか



▲ケルトの海を思わせる青色をバックに、こちらを見つめる美しい女性のCDジャケット。それぞれのメンバーの顔のパーツを合成したもの。

にも、薄型テレビのCMなどでこの曲は使われている。また、アニメや映画の挿入歌のカヴァー曲として『スノーマン』から「Walking in the Air」、『ロード・オブ・ザ・リング』から「May It Be」などがあり、そこでは、澄んだ歌声が聴く者を幻想的な世界へと誘ってくれる。

そして、ケルトの音楽を語る上で欠かせないものとはといえば、日本でも親しまれている「Danny Boy」や、ゲール語のリフレインが印象的な「Siúil A Rún（シューリ・ルウ）」であろう。これらは、アイルランドがヨーロッパの強国に抑圧されつつあった時代に、故郷を離れて戦地に赴く兵士への思いを歌ったもので、ケルトの人々が歩んできた苦難の歴史と深く結びついている。彼らが喜怒哀楽を表現する手段でもあったケルトの音楽は、今日でも我々の心を共鳴させる。

11月に入り、NFの準備をはじめ、学業やスポーツにいそしんでいる人も多いことだろう。そんな日常に少し疲れを感じたら、音楽を聴いて心身をリラックスさせてみてはいかがだろうか。（ほ）



## 鮭バターライス

余ったお米を有効活用！ 今回はお弁当にもピッタリな鮭バターライスを紹介します。味付きご飯は冷めても美味しいですよ。

（えむいち）

### 材 料（1人前）

ご飯	1膳分
鮭フレーク	大さじ1
バター（orマーガリン）	10g
ミックスベジタブル	大さじ1.5
コンソメ	小さじ1
塩・コショウ	少々



①フライパンに中火でバター5gを溶かしつつ、常温のミックスベジタブル、ご飯、コンソメを入れる。



②中火のまま具材をよく炒める。全体が混ざってきたら、手際よく鮭フレークを加える。



③香り付けに残りのバターを加えて焦げない程度に炒める。最後に塩・コショウで味を調整して完成。

はみだし  
すてーじ

クロスワードだけ解いたライフステージを食堂に放置するのはやめなさい。  
⇒そんな冊子ありましたっけ？

（工・3 亜斗）  
（ひらがな書きのものならば心当たりがありますが；編）